

## 地方推進協議会（説明会）について

## 1 理解醸成のための地方説明会の開催状況（予定を含む。）

	日 時	場 所
北海道	9月26日 13:30-15:30	KKR ホテル札幌
東 北	9月21日 13:30-15:30	メルパルク仙台
関 東	9月6日 13:30-15:30	合同庁舎（さいたま市）
北 陸	10月2日 13:30-15:30	県教育会館（金沢市）
東 海	9月14日 14:00-16:00	名古屋ダイヤモンドビルディング
近 畿	9月5日 13:30-15:30	兵庫県私学会館（神戸市）
中国四国	9月13日 13:30-15:30	県農業共済会館（岡山市）
九州沖縄	9月19日 13:30-16:30	ホテル熊本（熊本市）

## 2 説明会の内容

- ・ 最近の畜産をめぐる情勢について
- ・ パンフレットの説明
- ・ 質疑応答及び意見交換

## 3 説明会での主な意見等

- 価格が上がれば良いとは思わないが、なぜ上がるのか、価格の上昇分はどのように使われているのかなど、分かれば納得できる。
- 少しの負担と言っても、長期間積み重なっていくと、大きな負担である。国全体の取組として、日本における食料の安定確保に積極的に取り組んで欲しい。
- 「安全・安心な国産畜産物の供給」という部分に期待したい。生産者が作るのを止めてしまったら困る。生産者の日々の努力に感謝している。
- 生産者と一緒に学習会を開き、その場で生産の現状の話などを聞き、生産者の努力を理解しているので、私達もその生産物を食べようと話している。

- 食料自給率の向上、健康、自然環境の問題等は、農林水産省だけではなく、国全体で対応すべき問題である。国全体の取組として、日本における食料の安定確保に積極的に取り組んで欲しい。
- 食料の安定確保が一番大事なのではないか。次に来るのが、食の安全・安心、価格の安定ではないかと思う。
- 畜産は一度絶えると、復活はあり得ない。輸入が90%も占めるようになれば、輸入業者が今の値段で良質な肉を提供することはあり得ない。
- 未利用資源の利用推進は、環境面からも重要かつ有効と考える。
- 輸入穀物に頼らずに飼料米が利用できる体制を整えてもらいたい。
- 国に対して、濃厚飼料の自給率向上の取組支援の速度を上げてもらうことをお願いしたい。
- 消費者に（値上げを）受け入れていただいた時、その値上がりした価格分が生産者に回ってくるのか。
- 流通関係者では、畜産物の生産費が上がっている状況をどう捉えているのか。
- 飼料価格の上昇分を、流通業者と生産者が協議して肉の価格に転嫁してもらわないと農家は倒れることをきちんと伝えないと、消費者の理解を得られないと思う。
- 酪農経営は苦しく、酪農の生産者団体も直接消費者に窮状を全国各地で訴えているところであるが、情勢は厳しい。このような会議は心強い。
- 理解醸成のためのパンフレットを消費者に見てもらうのは効果的であり、ホームページを活用し、目に触れる機会を増やしてもらいたい。
- 消費者、生産者、流通業者それぞれ認識と立場が違うが、時間をかけ、相互理解の実績を積み上げて行くことが重要。日本の耕地を守るのは農業しかない。
- 「少しの負担をいただければ、これからも安全・安心な国産畜産物の生産を続けていくことが可能です。」、これはまさに生産者の思い。